

2026年 6月 4日

～ 研究に関するお知らせ ～

横浜医療センター脳神経外科では、下記の研究を行います。

「 出血発症小児脳動静脈奇形の臨床的特徴と遅発再発に関する後方視的検討 」

この研究は、条件を満たす患者さん全員を対象といたします。情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、最終ページに記載のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

■ 研究の対象となる患者さん

2007年1月1日から2025年12月31日までに当院脳神経外科で脳動静奇形の手術を受けた16歳以下の患者さん

■ 利用する試料・情報の種類

上記の対象期間中に、診療録に記録された診療情報を研究に使用させていただきます。使用に際しては「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、個人情報には厳重に保護した状態で行います。

■ 研究の概要

• 研究の目的及び意義

出血発症小児脳動静脈奇形(AVM)におけるnidusの形状と再発との関連を明らかにすることを目的とする。あわせて当院で治療した出血発症小児AVM症例の臨床的特徴、治療内容、短期転帰、再発の有無およびその経過を後方視的に検討する。小児AVMは成人例と比較して出血発症が多く、治療後再発が問題となることが知られている。とくに小児では余命が長い場合、再発した場合の累積リスクや再出血による影響が大きい。また、AVMの形態のうちdiffuse nidusは、病変境界が不明瞭で正常脳実質が介在するため、compact nidusと比べて残存病変や再発との関連が示唆されている。しかし、出血発症小児AVMに限定したdiffuse nidusと再発の検討は十分ではない。本研究により、出血発症小児AVMにおける再発リスクを考える上での形態学的特徴を明らかにし、長期画像フォローアップの必要性やフォロー戦略の最適化に資することが期待される。

• 研究の期間

倫理審査委員会承認日～2026年12月31日

• 研究の方法

2007年1月1日から2025年12月31日までに当院で出血発症小児AVMに対して治療を

受けた患者さんを対象とします。診療録、手術記録および画像検査所見を用いて後ろ向きに調査を行います。なお、本研究のために新たな検査や治療を追加することはありません。

- 外部への情報等の提供、個人情報等の取り扱い

この研究で得られた情報は、患者さんを特定できる情報(氏名、住所、電話番号等)は記載せず、本研究固有の症例番号(症例毎に採番)にて管理します。症例番号とカルテ患者ID等の対応表データを別途作成します。作成する対応表データはパスワード保護の上、研究責任者が厳重に管理します。

この研究の成績をまとめて学会発表や学術論文として公表されることもありますが、いずれの場合も患者さんの名前等の個人的な情報は一切公表されません。また、この研究で得られたデータが、この研究の目的以外に使用されることはありません。

- 研究の資金源

本研究は、資金を要しない研究です。(適宜変更してください)

- 利益相反に関する状況

本研究における、開示すべき利益相反は特にありません。

※臨床研究における利益相反とは

「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

■ 研究の実施体制

研究代表者:横浜医療センター 脳神経外科 部長 宮原 宏輔

■ ご質問等について

本研究に関するご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

<お問い合わせ先>

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

脳神経外科 部長 宮原 宏輔

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

電話 045(851)2621(代表)※平日 9:00 ~ 17:00